

なると未来づくり総合戦略2025【概要版】

1. 策定の趣旨（資料①該当ページ P3）

第二期鳴門市総合戦略の終期到来により、効果検証や最新の人口動態などを踏まえ、第二期総合戦略となる「なると未来づくり総合戦略2025」を策定します。
第七次鳴門市総合計画に掲げる将来都市像「ひとが輝き 持続可能な未来をひらく あらたな なると」の実現を目指し、「第七次鳴門市総合計画」の全施策から、特に人口減少対策や地域活性化に効果が見込まれる分野の取組を加速させるとともに、新たに必要となった施策についても加えます。

【総合戦略の目的】
社会動態・自然動態の改善による「人口減少スピードの緩和」と、中長期的には「人口減少に適応したまちづくり」の推進を図る。

第二期鳴門市総合戦略
(R2年度～R6年度)

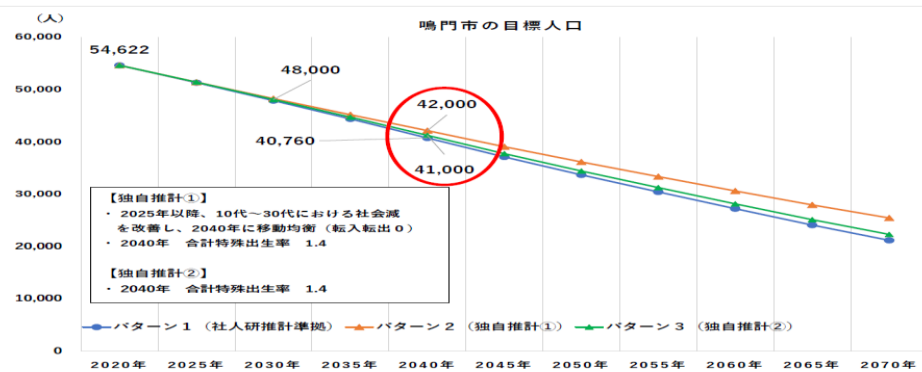
第三期鳴門市総合戦略
(R7年度～R12年度) ※

※第七次鳴門市総合計画の計画終期に合わせ R12 年度までの6カ年の期間

2. 第二期総合戦略の課題等（資料①該当ページ P5～P11）

- 第二期鳴門市総合戦略では、4つの数値目標と27の重要業績評価指標（KPI）を定め、取組を進めてきました。数値目標のうち「社会増減」は改善傾向にあり、「将来、鳴門市内で働きたいと思う高校生の割合」も目標を達成しています。
- KPIについても、感染症の影響で幾つかの事業に関して進捗が十分ではないものや見直し等が必要なものがありますが、「鳴門市で子育てをしたい人の割合」、「なると定住促進住宅取得補助金を活用し、定住した世帯数」や道の駅「くるくる なると」の年間入込客数など、子育て環境の充実や定住促進、将来的な移住の可能性のある交流人口・関係人口の拡大など、一定の成果を上げることができました。
- 一方、10代後半～30代の若者の転出超過と出生数の減少が課題であり、課題解決のためには、「結婚をする」「子どもを産む」という部分は個人の価値観や考え方に左右される部分が大いにあることを踏まえ、「鳴門で結婚や子育てをしたいと思う若者を増やす」「結婚・子育ての希望を叶えられるよう積極的に支援する」という視点が、より必要になると考えられます。
- こうしたことから、結婚・出産・子育てなどの希望を叶えられるよう、引き続きサポート体制の充実を図るとともに、第三期鳴門市総合戦略では「働く場の確保」や「教育環境の充実」、「新たなまちづくりエリアの整備」などの社会減対策の強化により、鳴門で結婚・出産する若者の定住促進を図ること、人口減少スピードの緩和に努めることが重要と分析しています。

3. 第三期人口ビジョン（資料②該当ページ P28～P29）



4. 第三期総合戦略の基本方針（資料①該当ページ P27～P28）

- （1）鳴門市の強み（良いところ）を活かす
Well-Being 指標から、周辺自治体と比べても「暮らしやすさ」は大きく変わりません。「鳴門の良いもの」に磨きをかけることのほか、シティブロモーションを通して、地域内外への鳴門の魅力の発信に繋げ、「鳴門の良さ」に共感する市民を増やします。
- （2）未来の鳴門市を担う人材育成
教育環境の充実や、「一度はまちを出たとしても、地元に戻りたい」と思うよう、「自分のまち」への誇りや愛着を高めます。
- （3）若い世代の定住促進
自然減・社会減対策の両面から子育て支援施策に加え、「仕事の創出」や「若者が楽しめる空間整備」など、「まち」の魅力向上を図り、若い世代の定住促進を図ります。
- （4）感染症による意識・行動変容を踏まえ、ひと・しごとの流れの創出
地方への人の流れなどの行動変容は、一部感染症前に回帰する動きが見られるものの引き続き続いており、こうした状況を踏まえた施策を実施します。
- （5）人口減少に適応する地域づくり
中長期的には避けることが難しい人口減少に対して、人口減少下における経済成長率や、地域幸福度である Well-Being 指標を高めます。
- （6）DX 化の推進
地方創生に向けた様々な分野において積極的に DX 化を推進します。

5. 4つの基本目標（資料①該当ページ P32～P48）

（1）「鳴門」らしさを活かして人の流れをつくる

- 【数値目標】
- ・観光入込客数 3,220 千人→3,600 千人
 - ・5年後の10代後半～30代の社会増減人口△415 人→△277 人

本市ならではの自然や食、体験、伝統文化から構築されたモノ・コトなどの「鳴門らしさ」を活用し、「足を運んでみたい」「何度も訪れたい」「住んでみたい」と思われるまちを目標に、「稼ぐ力」も高める交流人口・関係人口の拡大、さらには、移住・定住を促進します。
また、文化や歴史、創業等の「はじまりのまち」として若者が「チャレンジできる」「活躍できる」場としてのイメージアップを図るとともに、シティブロモーションを通して市の魅力や良さへの共感を育み、自ら情報発信源となる活動人口などを増やすことで地域内外に本市の魅力を発信し、人口の流出抑制や定住に繋がります。

（2）「鳴門」に仕事をつくる

- 【数値目標】
- ・市内総生産 2,600 億円→3,000 億円
 - ・将来、鳴門市内で働きたいと思う高校生の割合 30%→40%

生産年齢人口、特に人口減少の大きな要因となっている若年層の転出傾向の改善のほか、中長期的な人口減少を見据えた消費活動の縮小も勘案した、新たなイノベーションを誘発する「スタートアップ」の創出や地域の発展に寄与する企業誘致の推進、地場製品の魅力向上など、働く場の確保や産業振興を図ります。
また、多様化する価値観やワークスタイルも踏まえ、子育て世代や女性への就業支援等を行い、働きがいの向上や「仕事」と「子育て」などを両立できる環境づくりに取り組みます。

（3）「鳴門」で結婚・出産・子育て・教育の希望をかなえる

- 【数値目標】
- ・合計特殊出生率（5年間平均） 1.22→1.28
 - ・令和11年までの累計出生数 1,134 人→1,263 人

『県内随一の子育て応援都市』として、出会い、結婚、妊娠、出産、子育てに至るまで、切れ目のない支援体制を整えることで、ライフステージごとに必要なサポートが受けられる環境整備を図り、結婚や出産などを契機とした定住の促進に繋がります。
また、教育環境の充実を図り、未来の鳴門市を担う人材育成や若者の定住意識の向上に取り組みます。

（4）魅力的な「鳴門」をつくる

- 【数値目標】
- ・市で住むことを市外の人にお勧めしたい高校生の割合 52%→60%
 - ・幸福度（Well-Being 調査） 6.1 点→6.5 点

人口減少や少子高齢化の進展に伴い、空き家や老朽した住宅も年々増加しており、都市のスポンジ化が進んでいます。
こうした中、商業や交通などの生活に必要な機能をはじめ、市民の生活満足度を高め、まちの魅力向上や活力の衰退を防止する取組が重要です。
また、人口減少に適応したまちづくりを推進するため、都市計画マスタープランに基づくオープングート構想やフェーズフリーの推進など、「あらたな なると」づくりを加速します。

6. 15の基本的方向及び施策の概要

○：継続事業
★：重点事業（新）：新規事業

- ①鳴門ならではの地域資源の磨き上げによる交流人口の拡大
○観光交流のまちづくり
○ハード・ソフト両面におけるサイクリスト受入環境の整備
★（新）宿泊施設の誘致の検討
（新）道の駅「くるくる なると」基金の活用
②離れていても鳴門と繋がる関係人口の創出や移住・定住促進
○リアル・オンライン両面からの関係人口の創出と移住交流の促進
○半農半Xの推進による移住交流の促進
○「おてつたび」を活用したU・Iターン就職の促進
○「結婚、新生活、住宅取得」等のライフステージ毎の支援による定住促進
③鳴門への人の流れに繋げるシティブロモーションとシビックプライドの醸成
★シティブロモーションの推進 ★（新）インナープロモーションの強化
○第九学習などの郷土への誇りと愛着の醸成



- ④魅力ある新たな産業を鳴門に創出
★地域イノベーションを誘発するスタートアップの創出
★幅広い分野における企業誘致の推進・強化
⑤市内産業の振興による地域競争力の強化
○エコノミックガーデニングの推進
○農水産物のブランド強化 ○六次産業化の推進
★（新）「ふるさと納税型」CFを活用した新たな地場産品の開発
⑥就業支援対策等による働きがいの向上
○子育て中の女性を対象としたキャリアアップと新しい働き方の推進
○第4次鳴門市男女行動計画に基づく、「仕事」と「子育て」などを両立できる環境づくり
○職場体験を通じた勤労観の醸成やアントレプレナーシップ教育の推進、キャリア支援の実施



- ⑦出会い、結婚、出産、子育て等の希望がかなう環境づくり
○出会いの場の創出や結婚意識の醸成等に繋げる
「出会い・結婚・新生活の支援」
○鳴門市で子育てしたい人を増やす
「妊娠前から出産後までの包括的支援」
○保育料の無償化やインクルーシブ保育などの子育て環境の充実
⑧未来の鳴門市を担う人材育成・教育環境づくり
★AIドリルやコグトレなどを通じた学力向上を育む教育
★発達段階に応じた外国語教育の推進
★学区制の廃止を見据えた地元高校の特色化・魅力化
（新）若い女性の流入促進等に繋がる高等教育機関の誘致に向けた検討
○平常時・非常時ともに快適に利用できる学校施設の整備
○スポーツ・運動機会の創出や運動能力の向上



- ⑨重点まちづくり区域の整備の検討
★（新）「鳴門駅周辺の再開発」の検討
⑩市民が「まちなか」で集える新たなまちづくりエリアの整備
★（新）子ども・文化・学び等の要素を持った、文化会館と健康福祉交流センターを含む一帯エリアの整備
★（新）ウズパークの拡張など、スポーツ・レクリエーション機能の強化
★（仮称）大麻町総合防災センターの整備や（仮称）大麻町未来づくり検討委員会等による大麻町の活性化
⑪民間活力によるコンテンツづくりやまちづくり
★（新）民間提案制度の活用やリノベーションまちづくり等の推進
⑫都市計画マスタープランなどに基づく公共交通網の整備・充実
○まちづくり施策と連携した新交通手段の導入や交通ネットワークの見直し
⑬フェーズフリーの推進による災害などに強いまちづくり
○防災訓練・出前講座等を通じたフェーズフリーの普及・啓発
⑭地域コミュニティの充実・活性化
○自治会への加入促進などの人口減少下におけるコミュニティ形成の支援
⑮DX化の推進
○「鳴門市DX推進計画」に基づくDX化の推進



① 人の流れをつくる

② 地方に仕事をつくる

③ 結婚・出産・子育ての希望をかなえる

④ 魅力的な地域をつくる

国の総合戦略にある4分野